

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川農業高等学校長 赤 穂 悦 生

次のとおり令和8年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<p>道北の農業・産業人材育成の拠点校として、地域社会の健全かつ持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を育む。あわせて、持続可能な地域産業と共生社会を創造する、自立した人材を育成する。</p> <p>(1) カリキュラム・マネジメントの推進                  (2) 主体的な学びを促す授業改善と評価の充実                  (3) キャリア教育と道德教育の統合的推進                  (4) 発達支持的生徒指導および課題予防的生徒指導の展開（いじめの未然防止・早期発見・早期対応）                  (5) 地域・産業界と連携した「開かれた教育課程」の実現                  (6) グローカル（地球規模かつ地域密着）な視点を持つ人材の育成                  (7) 働き方改革による教育の質の向上                  (8) リスクマネジメントに基づく危機管理体制の確立</p>
---

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を計画的に進めたことにより、各教科の目標を概ね達成することができた。</li> <li>教科間・学科間の連携を強化し、教科横断的な視点を取り入れた授業実践の推進に努めた。</li> <li>「観点別学習状況の評価」の定着を図り、評価基準の平準化に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業教育における「地域課題を捉えたプロジェクト活動」が、実社会に直結する探究的な学びの実践であると、外部から極めて高い評価を得た。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価を定着させるため、シラバスを活用した丁寧な周知に加え、評価結果の検証と改善を行う機会を定期的に設定する。</li> <li>各学科で作成した単元配列表を基盤とし、課題解決型学習を通じた教科横断的な授業の充実・発展を図る。</li> <li>ICT活用授業をさらに深化させるため、教職員研修を継続的に実施し、現場における効果的な活用手法を組織的に定着させる。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員で指導方針の共通理解を深め、教員間やクラス間でのバラつきを排した、組織的かつ一貫性のある指導を継続する。</li> <li>登校時の玄関指導や定期的な身だしなみ指導を定例化し、生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の定着・改善を推進した。</li> <li>生徒アンケートの結果を踏まえ、夏季略装の規定を見直した。今後も社会情勢や人権の視点に立ち、校則の妥当性について継続的な検証・検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果では「十分」・「おおむね良好」を合わせて約80%に達した。一方で、身だしなみ検査の頻度に起因する経済的負担を懸念する意見や要望も寄せられた。</li> <li>身だしなみ指導において、教員間やクラス間で指導基準にバラつきがあるとの指摘を受けた。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の目的を明確にし、その意義を丁寧に説明することで、生徒・保護者・教員の連携強化を図る。</li> <li>指導法については、教員間の認識の差をなくし、組織として統一した指導を徹底する。</li> <li>教員による日々の丁寧な生徒対応（拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、観察等）及び教員間の情報共有により、生徒指導の諸課題の未然防止に組織的に取り組む。</li> </ul>	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路行事については計画通り実施し、専門教育での学びを最大限に活かした生徒の進路実現を達成することができた。</li> <li>外部機関との効果的な連携により、多角的かつ充実したキャリア支援を展開し、生徒一人ひとりの進路選択を十分にサポートした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導に対しては高い評価を得ているが、今後はより社会のニーズに即した実践的な指導の拡充が求められている。</li> <li>見学実習やインターンシップを軸とした進路支援のサイクルが確立されており、生徒の職業観の醸成において着実な成果が表れている。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者および生徒への情報提供を継続的に行い、進路指導方針への理解と共感の促進を図る。</li> <li>関係機関、上級学校、事業所等との連携を一層強化し、生徒の適性に合致した「ミスマッチのない進路実現」を目指す。</li> </ul>	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の教職員に業務が集中し、負担の不均衡（アンバランス）が顕著である。</li> <li>行事数や校務のデジタル化が不十分であり、平日の勤務時間内に業務が完結していない。</li> <li>生徒募集について、本校独自の強み（特色）を活かした発信が不足している。入学者数の減少傾向に歯止めをかけるべく、戦略的な生徒募集活動を展開する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集の強化が最優先課題であるとの助言に基づき、本校の魅力発信や広報体制の抜本的な見直しによる生徒募集の強化が求められている。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集については、農業・産業拠点校としての強みを再定義するとともに、ホームページやSNS、地域フリーペーパー等を活用した、他校にはない「選ばれる理由」を戦略的に広報する。</li> <li>適正な人員配置と分担を行い、分掌・学年内での業務量を可視化し、特定の個人に依存しない「平準化」を図るため、</li> <li>教育活動に注力できる時間を創出するため、デジタルツールの導入によるルーチンワークを効率化するなど、校務DXの一層の推進を図る。</li> <li>行事の実施時期の見直しや行事数の精選を行い、教職員が「安心して活動できる」持続可能な体制を構築する。</li> </ul>	